



グローバル化の行方と ローカリティの再生

— ポスト・コロナ社会を語る —

オンライン シンポジウム

2020 8/24 [月] 13:30–17:00 [参加費] 無料

■ パネラー

成原 慧 九州大学 法学研究院

今里 悟之 九州大学 人文科学研究院

池下 研一郎 九州大学 経済学研究院

Edward Vickers 九州大学 人間環境学研究院

■ 司会 井手 誠之輔 人文科学研究院 潮崎 智美 経済学研究院

グローバル化の時代は今後も持続するの
か。持続するとすればどのような在り方が望ましい
のか。新型コロナウイルスが文字どおりグローバルに拡大
する中、今、私たちが唐突に向き合っている現実、一時
的であるにせよ、人やモノの移動が制限され、国や県
などの境界がつよい制度として機能する社会への逆行
現象として映じます。日本における自制自粛の呼びかけと
実践が、公権力の行使と同等の効果を発揮している点も
注目されるどころです。一方、教育や経済活動の現場で
は、遠隔授業や在宅勤務が急速に一般化し、オンライン
環境を活用した社会生活が認容され、今後、日常化して
いく可能性が問われています。情報化の分野ではグロー
バリゼーションがさらに浸透する契機となっています。

九州大学人社系協働研究・教育コモンズでは、

- 1) 超スマート社会
- 2) 持続可能な開発目標 (SDGs) と 循環型経済
- 3) アジアに開かれた九州
- 4) 人社系学問の形成史

という4つの観点を研究活動の指針としています。現在
進行中の現実、私たちの協働研究の観点とも深く関係
し、さまざまな分析と議論を喚起しています。ポスト・コ
ロナ社会を見据えるとき、持続可能なグローバル化の
時代では、個々人が身を置く場や地域と結びついたロー
カリティが保全され、重視される必要が生まれています。

このシンポジウムでは、ポスト・コロナ社会における
グローバル化とローカリティとの関係性を中心
に、公権力と社会との関係、新しい社会生活の様態に
ついて、広く参加者で議論します。是非とも、皆さま
の積極的な参加をお待ちしています。

[シンポジウムの形態] オンライン形式 (Microsoft Teamsで開催)

[参加申込み]

下記サイトへアクセスの上、事前登録をお願いします。折り返し、アドレスとパスワードを
ご連絡いたします。 <http://commons.kyushu-u.ac.jp/collaborative/news.html> ▶

